

子育て支援の拠点として

保育所の役割

地方においても、子どもや子育てを巡る環境に大きな変化がみられ、保育所にはさまざまな子育て支援の役割が求められるようになってきています。

「働き方改革」や経済的な事情などから母親の多くが働くようになったことで、乳児保育や延長保育へのニーズも高まっていると感じます。また、発達などの課題やさまざまな家庭事情を抱えている親子のケースも見られます。日常の関わりの中で子どもの変化や保護者の抱えている悩みを

丁寧に取り、要望があれば相談機能につなげていくこともあります。こうした子育て支援には保育者のより専門的な対応が必要とされており、子供たちと家族が少しでもより良い関係を築き、安定した気持ちで生活できるように応援し、見守っています。

幼児教育のキーワードは「自らの学び」

小中高の教育も※アクティブラーニングへの転換期を迎え、それを受けて保育所においても2018年度から新たな「保育所保育指針」が施行

されて、この指針によって保育所は幼児教育機関であることが示されるようになりました。21世紀の幼児教育のキーワードは「自らの学び」といわれ、子ども主体の遊びや活動を通して自ら学ぼうとする姿を支えることが、保育に求められています。

幼児期は「学びの芽生える大切な時期」です。自分の興味をとことん追求して遊び込む体験を積み重ねることで、感性・意欲・自己肯定感・粘り強さ・仲間と協力する力などさまざまな力を伸ばすことにつながっていきます。子どもの遊びを豊かにするために、子どもの興味・関心への微妙な変化に気付ける力や発達を理解する力が保育士には求められます。そして、子どもの発達を促すためにより良い環境を設定したり（環境構



松川保育園
園長 山崎 まゆみ

成術)、指導計画を作成する中で見通しある保育を展開していく力も保育士の専門性として大切となってきます。

また、新指針の中では、小学校の教育にスムーズに接続させるための「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」というものが示されており、幼保小の連携もますます重要となってきました。

こうした保育を日々実践していくことはなかなか難しく、保育の奥深さに悩む毎日ですが、私たち保育士は一人ひとりの子供たちがかけがえない存在であることに心動かされながら、これからも、保育に真剣に向き合っていきたいと思っています。そして、子育てのパートナーとして、未来ある子供たちの育ちを、保護者とともに支えていきたいと考えています。



※アクティブラーニング：学習者である生徒が受動的となってしまう授業を行うのではなく、能動的に学ぶことができるような授業を行う学習方法



1 みんなで楽しく「いただきます！」保育園では、食育を通して友達と一緒に食べることの楽しさ、食事のありがたみを早期から一緒に学んでいます 2 地域の食材をふんだんに使った「キノコたっぷりカレー」 3 「きょうはこんなものをたべたよ」お母さんと一緒に給食のお話 4 果物の切り方ひとつづつから気を配り、食べるお子さんの反応を実際に見て、一人ひとりにきめ細かな対応しています 5 煮干しだしを使って減塩の大切さを学んでいます。お母さんに「にぼし買って！」とお願いする子もいました。



中野市の保育士になってみませんか

「ほいくのげんば」で働く仲間を募集しています。

保育士としてのやりがいを感じながら、安心して働き続けることができる職場づくりを目指しています。

【中野市保育園の働きやすさのポイント】

- ・保育士の年齢層が厚く、保育士、幼稚園教諭それぞれの資格や経験を生かせること
- ・一人担任ではなく、複数担任であること
- ・仕事と家庭が両立できること
- ・研修の機会が充実していること

※採用条件など、詳しくはお問い合わせください。

問 保育課保育係 ☎22-2111 (内線293)



ほいくのげんば 今とこれから

保育所では一人の保育士が保育する児童の数が決められています。最近では3歳未満児の入所が増えたこともあり、保育現場は慢性的な保育士不足に悩まされています。保育士資格をお持ちの方には、市内保育所のお手伝いをぜひお願いします。

また、保育士は保護者とともに育てていくという気持ちで、毎日全力で子供たちと向き合っています。ご家庭でも、お子さんと過ごす時間を大切にしてください。

少子高齢化により、社会環境が大きく変化する中、保育ニーズの多様化も進んでいます。保護者の皆さまのニーズに対応できるよう保育現場も努力していきますが、地域の皆さんにもファミリーサポートの提供会員になっていただき、社会全体で子育てを支援する環境も整えていきたいと思えます。皆様のご理解とご協力をお願いします。



中野市子ども部
部長 月岡 篤志



2018年4月から、「保育所保育指針」が大幅に改定されました。
保育とは何か、保育で大切にすべきことは何かという基本方針が変わったことにより、大きく変わりつつある保育の現場。
変化への戸惑いを感じながらも、前を向いて「せっかくの変わり時ですから、良い方向に風を吹かせられると良いですね」と語ってくれた保育士さんの表情に、中野市の明るい未来を感じました。

特集 ほいくのげんば

終わり



保育園の

しょくいくのげんば



私たちの取り組みをご紹介します!

平岡保育園
栄養士 福住 真由子